

## 6-5 火葬場計画

### 1. 現状

① 施設の状況等

火葬棟：火葬炉 8 基、告別室、告別ホール、炉前ホール、集骨室、遺体安置室

待合室：待合ロビー、式場、和室、洋室、事務室

小動物棟：動物炉 1 基、保冷库



② 対応件数等

年間 約1,800件の火葬対応をしています。1日平均 5.8件、多い日では13件。利用動向として12時と14時出棺の比率が8割で午後の対応が極めて多く、火葬件数は毎年70～95件の増加傾向です。小動物は年間約2,650件で、増加傾向にあります。

③ 経費

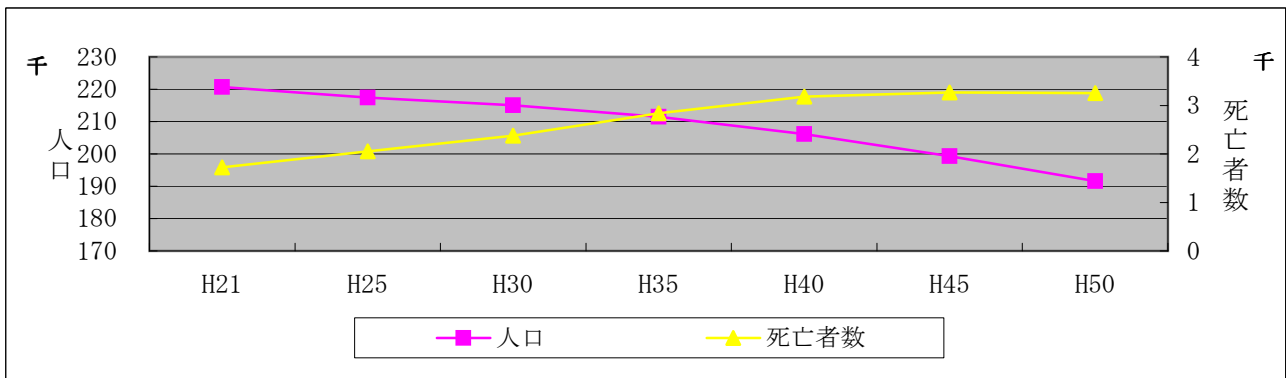
年間経費は70,000千円。過去4年間で人体炉の大型化と排気筒等の工事を行いました。火葬炉の運転管理、集骨対応、受付などを長期契約（3年）の民間委託をしており、施設整備の工事は、長期計画に基づき実施しています。

### 2. 課題

- ① 昭和58年建設で既に28年が経過し、火葬炉の根本的な劣化が進んでいます。
- ② 建物の雨漏りをはじめ、構造的劣化や待合室・駐車場などの狭小が生じています。
- ③ 火葬炉 8 基での対応は、件数増加によって困難となっており、今後は懸念されます。
- ④ 小動物は、冷凍ストッカーで対応し平準化を図っているが、増加対応が懸念されます。
- ⑤ 火葬炉等特殊な設備であり、徹底した危機管理が必要です。

#### <平成50年までの高齢人口と死亡者数の推計>

	H21	H25	H30	H35	H40	H45	H50
人口	220,717	217,462	215,092	211,493	206,163	199,343	191,590
75歳以上人口	23,580	26,413	30,541	36,477	40,945	42,032	41,855
死亡者数	1,726	2,053	2,374	2,835	3,182	3,266	3,253



グラフで示したとおり、管内人口は減少するのに対し、死亡者数は増加していきます。平成40年には現在の約2倍の死亡者数となり、平成42年以降横ばいになると推測しました。

### 3. 計画

#### (ア) 事業

- ① 経常的修繕や交換・点検の計画化と見直しを徹底し、安定稼働と効率化を図ります。
- ② 新火葬場稼働までは、既設の火葬炉8基をより円滑・適正に運営するため、受付体制を改善します。(平成23年10月1日から24時間火葬受付システムを導入し、夜間受付を可能としました。)
- ③ 新火葬場について、スケジュール・財源など、その方向を検討します。
- ④ 住民・市町村をはじめ、葬儀会社との情報交換をさらに進めます。
- ⑤ 受託会社を含めた危機管理対策を実施します。

#### (イ) 施設整備計画

新火葬場の稼働を平成30年度と予定し、その方法をPFIによる効率的・平準的なものと設定しました。その間、現施設の修繕費等は極力コストを抑えながら、安定稼働を続けるように計画しました。

単位：百万円

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
一般経費	需用費(燃料/電気)等 (運転管理委託料を除く)	28	29	29	30	30	31	32						
委託料	火葬炉運転管理	28	28	30	30	30	31	31						
	PFI								130	130	130	130	130	130
工事費	通常整備費(経常分)	12	10	9	9	9	6	4						
PFI	斎場建設委託料				アセス 15	アドバ イザ 20	—	—	—	—	—	—	—	—
	斎場建設工事 造成/建物/解体						造成	建設	解体					
	建設一時金払い・公債費	—	—	—	—	—	—	—	1,700	135	135	135	135	135
	建設PFI割賦払	—	—	—	—	—	—	—	—	50	50	50	50	50
火葬計画 合計		68	67	68	84	89	68	67	1,830	315	315	315	315	315

※詳細は【資料5-1 可茂聖苑将来需要予測】、【資料5-2 火葬場PFI比較表】にて掲載